

第8章 各主体の役割と進行管理

第8章 各主体の役割と進行管理

1 各主体の役割

みどりの基本計画は、市民、事業者、行政など、さまざまな主体がみんなで協力しあい、連携して取り組んでいかなければ実現できません。私たち市民一人ひとりが、それぞれの立場で、できることから取り組んでいきます。

(1) 市民・活動団体

市民や活動団体は、家庭での庭づくりをはじめ、公園や道路の花壇づくりや清掃など、公共空間の緑化活動に参加することや、その活動の運営など団体として組織的に協力することが期待されます。また、一人ひとりがみどりの価値や機能について理解し、主体的に取り組むことで、みどりに対する意識を高めていくことが重要です。



町内会による街区公園の清掃活動の様子

(2) 事業者・大学などの研究機関

CSR（企業の社会的責任）などを通じて環境意識の啓発を行うことや、土地開発などの企業活動を通じて、うるおいのあるみどりのオープンスペースを創出するなど、地域社会に貢献していくことが求められています。また、大学などの研究機関においては、専門的・学術的な視点から、情報発信やみどりづくりへのアドバイス、みどりに関する調査や技術開発に貢献していく役割が求められています。

(3) 行政

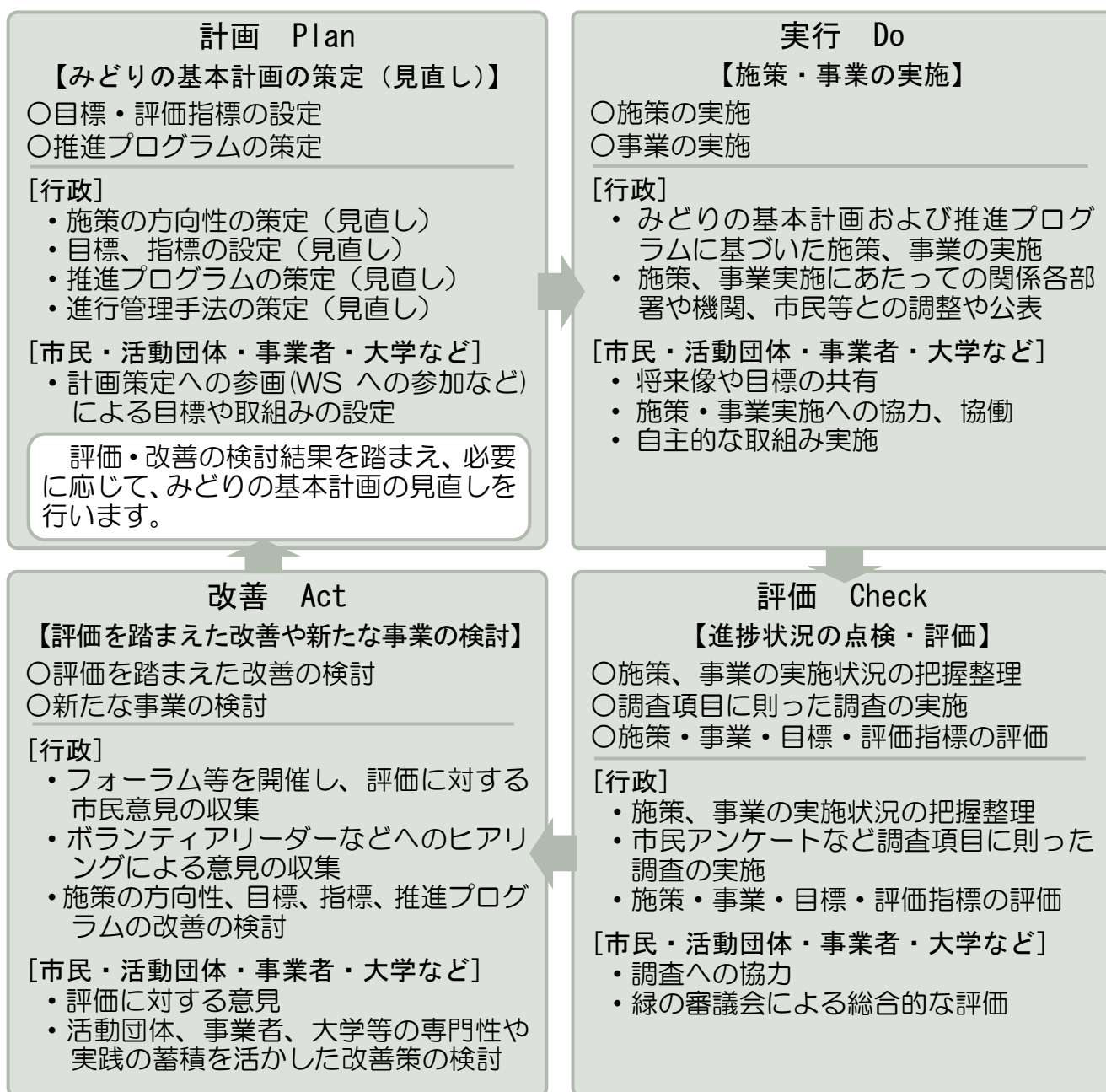
集約的なまちづくりが求められる中で、企業や他の行政機関などさまざまな主体と連携を図り、公園緑地だけでなく、多様なみどりのオープンスペースを創出していきます。また、みどりに関する情報発信やみどりと触れ合う機会を提供するなど、市民や活動団体、事業者・研究機関と連携しながら、緑化行政を推進していきます。

2 計画の進行管理

(1) PDCA サイクル手法※の導入

みどりの基本計画が目指すみどりの将来像の実現に向けて、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Act)のPDCAサイクルの考え方で順応的に計画の進行管理を行います。計画期間の中間年(令和6年(2024年))には、計画の進捗状況を総合的に把握し、目標の妥当性や達成状況について中間評価を行い、評価をふまえた改善や、新たな事業につなげていきます。

また、市民や活動団体、事業者、行政が一体となって計画や施策を推進していくために、積極的に情報を提供・公表し、共有を図ります。



※ PDCA サイクル手法：マネジメントサイクルの1つで、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(act)の順に実施し、このプロセスを繰り返すことで、業務の改善・向上などを行っていく手法。

